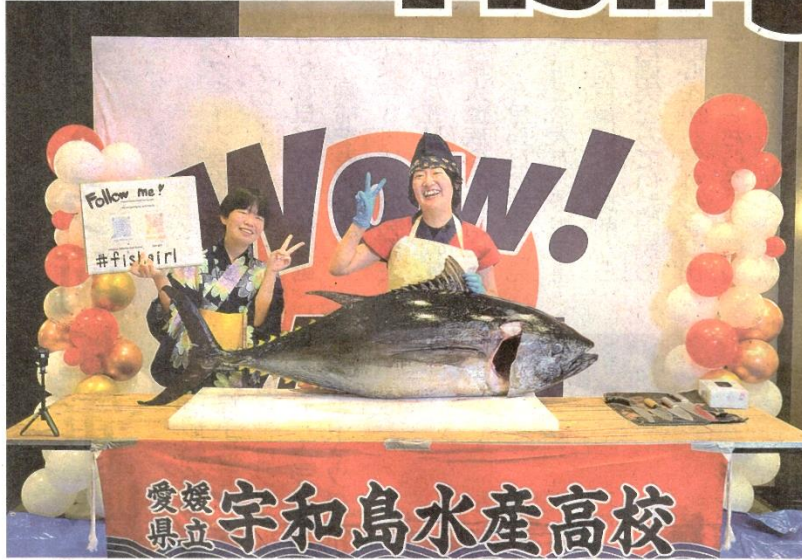


Hi! We are Fish girls!!

宇和島水産高生2人



台湾と米国でマグロ解体ショーを披露した山下さん(右)と出水さん
(宇和島水産高提供)

ワイドえひめ WIDE EHIME

台湾と米で マグロ解体 英語で解説 県産魚PR

宇和島水産高校(宇和島市明倫町1丁目)の「フィッシュガール」の2人が11月、台湾と米国を訪問し、県産養殖マグロの解体ショーを披露した。中国による日本産水産物の輸入禁止措置が続く中、2人は豪快な包丁さばきとトークで会場を盛り上げ、県産水産物のPRと販路開拓に一役買った。

2人は水産食品研究部の2年山下羅衣さん(16)

と1年出水花音さん(16)。11月10〜21日の日程で、台湾は愛南漁協、米国は日本貿易振興機構(シエトロ)がそれぞれ展開する事業の一環で訪れ、ショーでは愛南産と宇和島産の養殖マグロを使った。

台湾では高雄市のデパートで開催中の日本物産展で実演。出水さんの養殖マグロに関する解説に合せて、山下さんが魚に包丁を入れた。周辺には100人以上の観客が集まり、2日間で計約100キを完売した。米国フロリダ州で開かれた日本食普及イベントでは、大手ホテルやレストランのバイヤーを前に、約70キのマグロをさばいた。作業が苦戦すると、出水さんが観客に向けて山下さんへの応援を英語で呼びかけるなど、アドリブを交えながら場をつないだ。

フィッシュガールの海外遠征は新型コロナウイルスの影響による中断を経て9月に再開した。同時期に2カ国を訪問するのは初めてで、出水さんは「英語での解説で緊張もあったが、多くの観客に商品の魅力を伝えられた」。同行した鈴木康夫教諭は「期待以上の盛り上がりで、来場者の反響も大きかった」とたたえた。来年も関東などで解体ショーを実施する予定で、水産高教員を目指しているという山下さんは「宇和島の水産物をPRし、将来はフィッシュガールとしての経験を教える子にも伝えたい」と話した。(長尾翼)